

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ET46J001	臨床心理学特論 (Special Seminar (I) on Clinical Psychology)					臨床心理学						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
選択	2	1	大学院教育学研究科			氏名 武内 珠美 E-mail ttakeuti@oita-u.ac.jp 内線 7611						
授業の概要	心理臨床活動に携わる高度職業専門家としての、仕事内容、職域、他職種との連携、職業倫理、発達段階と訓練課程および内容、社会の中での臨床心理士の立場・役割、臨床心理士をめぐる社会的状況と課題などについて、前半で学ぶ。後半では、特定の臨床心理学的問題や課題に焦点をあて講義し、課題についての視点と検討を深める。今年度は「子どものこころの問題」を扱う。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	高度職業専門家としての臨床心理士の、仕事内容、職域、連携のあり方、職業倫理、発達段階と訓練、臨床心理士の立場・役割											
目標2	特定の臨床心理学的問題や課題について理解を深め、課題追求の方法論について理解する。											
目標3												
目標4												
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	臨床心理士の仕事内容、職域、連携											
2	臨床心理士の職業倫理											
3	職業アイデンティティと訓練課程											
4	臨床心理士の社会的役割と課題											
5	これまでの学びでのディスカッション											
6	乳幼児期のこころの問題(1)											
7	乳幼児期のこころの問題(2)											
8	乳幼児期のこころの問題(3)											
9	児童期のこころの問題(1)											
10	児童期のこころの問題(2)											
11	児童期のこころの問題(3)											
12	思春期・青年期のこころの問題(1)											
13	思春期・青年期のこころの問題(2)											
14	思春期・青年期のこころの問題(3)											
15	思春期・青年期のこころの問題(4)											
ラーニング	A:知識の定着・確認	事前に読んできている内容について、質疑応答を実施しながら進める。			工夫 その 他の	必要な論文や資料を収集することや、漫然と読んでいくのではない、批判しながらの読み集め方について、体得していくことができるように指導していく。						
	B:意見の表現・交換											
	C:応用志向											
	D:知識の活用・創造											
時間外学習の内容と時間の目安	準備 学修	次回の内容については、必ず精読してくる。質問したい内容を書き出して持ってくる。										
	事後 学修											
教科書	「新版 心理臨床家の手引」 「精神分析的な心理療法の手引き」 その他(特論の中で指定)											
参考書	特論の中で指示していく											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	毎回の参加状態	50%										
	2回のレポート	50%										
注意事項	なし											
備考	本科目は、臨床心理士受験資格取得に関する必修科目である。臨床心理士受験資格取得のための必修科目については、別に配布する資料に基づいて履修すること。											
リンク												
	URL											